

市川の空気を調べる会

通信5号 2014年2月20日(木)

発行 市川の空気を調べる会 代表 鈴木一義

電話&FAX: 047-373-8369 E-mail: kazu38yoshi@eos.ocn.ne.jp

事務局 秋元久枝 電話&FAX: 047-373-1971

☆ 2013年12月度 NO₂測定結果の概要

定例測定日の12月5日(木)～6日(金)の天候は、5日は快晴6日は薄曇りで、ともに微風という測定に適した天候でした。

測定数

市川市内(隣接する松戸市の一部、船橋市本中山を含む): 396件

うち有効測定数: 387件 紛失数: 6件 異常値: 3件(青ゴム蓋の遅れ、等)

市外 松戸市 関さんの森: 100件 船橋市海神: 4件 千葉市中央区: 20件

埼玉県松伏町: 2件 うち紛失が関さんの森で1件、千葉市で1件の他は有効でした。

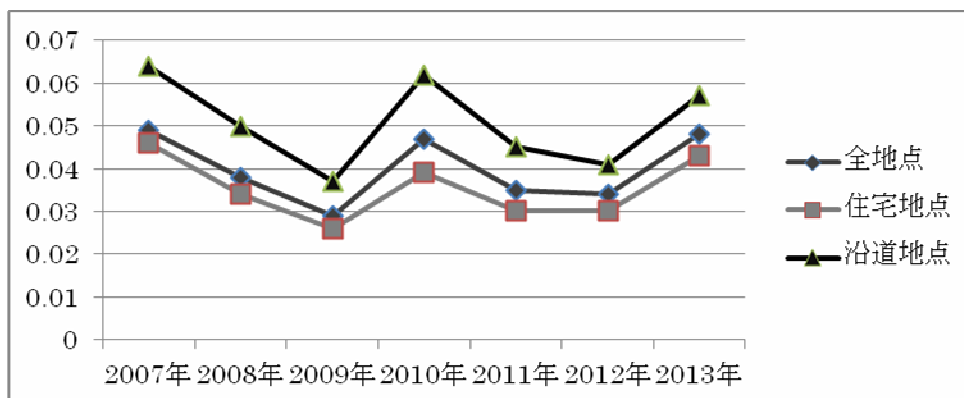
市川市内測定結果

本年12月度の市内全域と住宅地、沿道地別の平均濃度と測定数を、改良型を用いた過去6年間の12月度の値と共に下表に示します。濃度の推移は下図に示します。

表1 12月度の市内全域と住宅地点、沿道地点のNO₂平均濃度(ppm)と測定数の推移

年度	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	
全地点	平均濃度(ppm)	0.049	0.038	0.029	0.047	0.035	0.034	0.048
	測定数	338	377	365	338	366	375	387
住宅地点	平均濃度(ppm)	0.046	0.034	0.026	0.039	0.030	0.030	0.043
	測定数	280	274	253	222	245	245	252
沿道地点	平均濃度(ppm)	0.064	0.050	0.037	0.062	0.045	0.041	0.057
	測定数	58	103	112	116	121	130	135

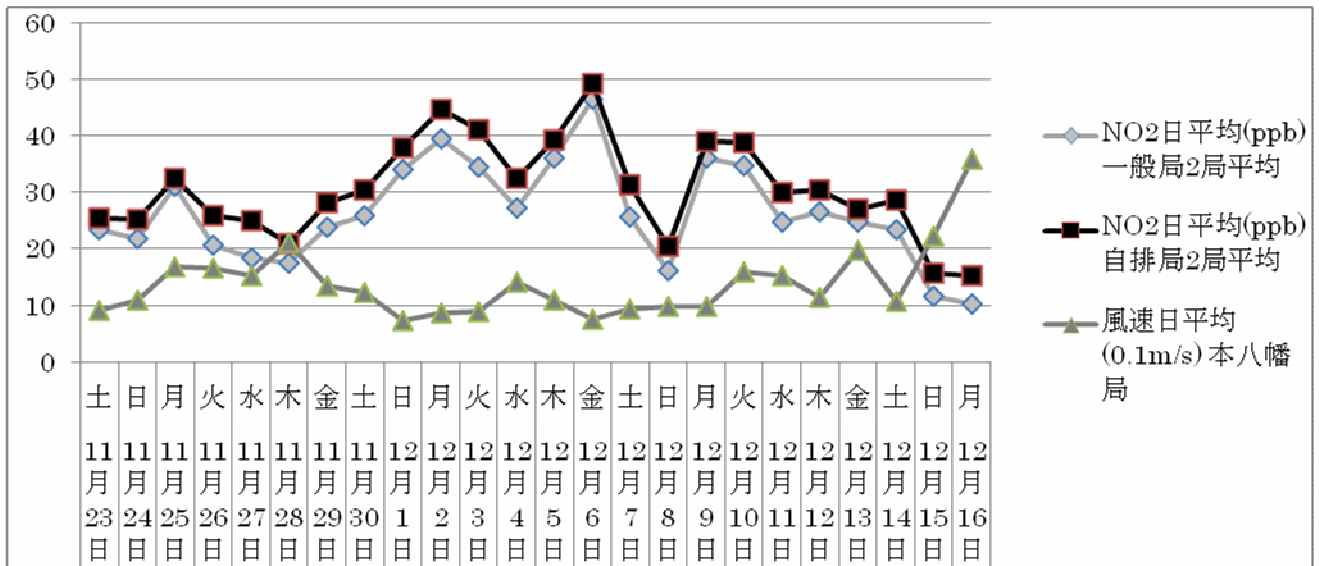
図1 市川市内の12月度NO₂濃度の年度推移



市内測定数は、12月度としてこれまでの最多数でした。NO₂の平均濃度はここ2年間の減少傾向から、一転2010年度と同等の高濃度となりました。

ここで、この時期の市川市測定局のNO₂濃度と風速の変化を示す図2をご覧ください。

図2 2013年12月度 測定日周辺の市川市測定局NO₂濃度と風速の変化



測定は12月5日(木)16時から6日(金)16時ですから、24時間のうち16時間という大部分(2/3)は6日に入ります。6日は風も弱くNO₂濃度は周辺で最も高い日でした。この状況で測定した私たちの測定値も非常に高くなりました。

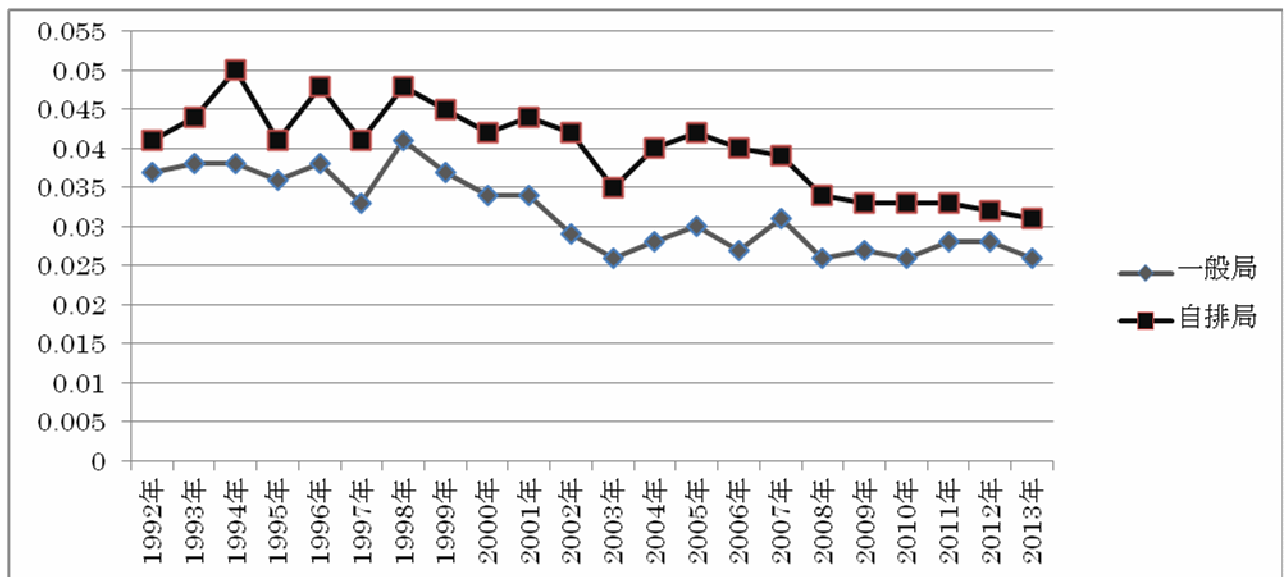
それでは実際にこの時期のNO₂濃度はこれまでより増加しているのでしょうか。そこで、図3をご覧ください。

図3 市川市大気汚染測定局の測定値に見る22年間のNO₂濃度(ppm)の変化

(市川市環境保全課提供の測定データをもとに作成)

各年度とも12月度定例測定日を挟む24日間の平均濃度(ppm)

一般局:本八幡局と新田局の平均値 自排局:市川局と行徳局の平均値



これは当会が測定を始めた1992年からの、12月度定例測定日の周辺24日間の、市川市測定局におけるNO₂平均濃度の年度毎の変化を示すグラフです。各点は24日間という長

期間の平均濃度なので、その時期の NO₂ 濃度をほぼ正しく表していると考えられます。グラフが示すように、2000 年頃から住宅地（一般局）も沿道地（自排局）も、車の排気ガス規制の強化などにより、2013 年度も含めて着実に NO₂ 濃度が低下しています。従って表 1 と図 1 の 2013 年 12 月度の高濃度は、定例測定日が高濃度の日であったことを反映したためと見なせます。

市川市地域別の NO₂ 濃度

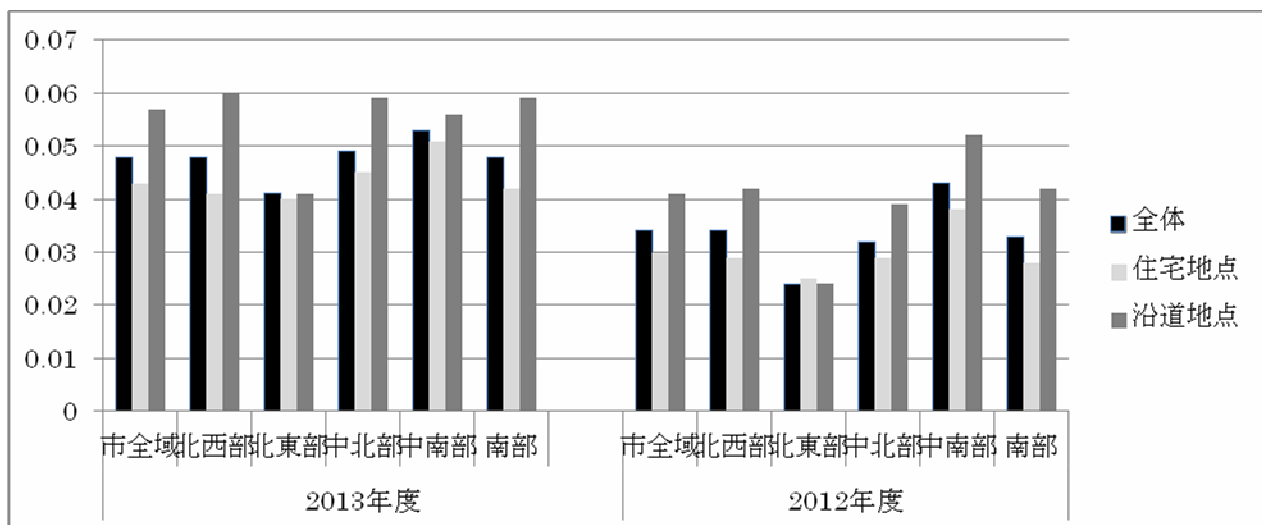
市川市を地理的に 5 地域に分けて、各地域の NO₂ 濃度を見てみましょう。

表 2 に 5 地域の住宅地点と沿道地点ごとの平均濃度と測定数を示します。図 4 は各地域の平均濃度を棒グラフで示したもので、2012 年 12 月度も参考例として載せました。

表 2 2013 年 12 月度市内地域別 NO₂ 平均濃度 (ppm) と測定地点数

		市全域	北西部	北東部	中北部	中南部	南部
全域	平均濃度	0.048	0.048	0.041	0.049	0.053	0.048
	地点数 (割合)	387 (100%)	165 (43%)	44 (11%)	80 (21%)	60 (16%)	38 (10%)
住宅地	平均濃度	0.043	0.041	0.04	0.045	0.051	0.042
	地点数	252	108	31	57	31	25
沿道地	平均濃度	0.057	0.06	0.041	0.059	0.056	0.059
	地点数	135	57	13	23	29	13

図 4 2013 年 12 月度市川市内地域別 NO₂ 濃度 (2012 年 12 月度も併記)



北西部（北国分、中国分、国府台、国分、曾谷等）は、松戸街道に外環道国道部分が接続され、大型車が多数通るため沿道部の濃度は高いですが、2 車線なので住宅地はそれ程高くなっていません。**北東部**（大町、大野、東大野、下貝塚、柏井等）は、大型道路は旧市松有料道（松戸原木線）ぐらいで、常に沿道地、住宅地とも最も低濃度となっています。**中北部**（JR 線以北で真間、須和田、宮久保、北方以南）は主に 14 号線と市川柏線が走り、沿道部は北西部と同程度ですが、住宅地はより高濃度となっています。一方**中南部**（JR 線以南、江戸川以北）は、京葉道路、産業道路が走り、大型道の影響で住宅地は最も高濃度となっています。江戸川以南の**南部**は、大型道の湾岸道路が走りますが、今回は沿道部、住宅地とも北西部と同等でした。

☆ 講演会のお知らせ

当会恒例の年度末の講演会を、今回は外環連合と共催で下記の通り開きます。市民公開講演会です。ふるってご参加ください（資料代；300円）。

日時と場所：3月9日(日)13時30分より、中央公民館（葛飾八幡宮境内）第1会議室内
内容：

① 2013年度市川市内NO₂測定結果報告 ---- 鈴木一義

昨年6月と12月のNO₂測定結果を報告します。各町名ごとの汚染度がわかる一覧表も載せた測定報告書を提供します。

② 外環道路の現状 ---- 高柳俊暢（外環連合事務局長）

広島高裁は先月末、国道2号線沿線住民の騒音被害は受忍限度を超えるとして、国に住民への賠償を命じました。国が昨年発表した外環道路の騒音予測値はこの受忍限度を超えていました。従って、今のままでは外環道路は作れないこととなります。この事実をふまえた新たな運動の展開が必要です。

③ 自動車排ガスとPM_{2.5} ---- 西村隆雄（東京大気汚染公害裁判弁護団事務局長）

中国から飛来するPM_{2.5}が大きく取り上げられています。しかし実際は、少なくとも東日本のPM_{2.5}は車由来が主です。PM_{2.5}の日本での環境基準は、東京大気汚染公害裁判の和解条件として制定されました。また同時の和解条件として、東京都民に対する大気汚染健康被害者救済制度が創設されました。西村さんはこれら和解条件の実現のために、率先して活躍された弁護士です。

☆ 総会のお知らせ

3月15日(土)13時30分より、市川公民館第3研修室にて開きます。当会の歩みを振り返り、更に前に進める総会です。会員、賛助会員の皆さまのご参加をお願いします。

あとがき

大型道路の建設は進み、自動車は増え続けています。文部科学省が毎年発表する学校保健統計では、子供の喘息患者数は増え続けています。当会の報告で見られるように、NO₂濃度は減少傾向にあります。NO₂以外のPM_{2.5}等の車排気ガスが要因となっている可能性があります。1988年の公害健康被害補償法の「改正」により、新たな大気汚染健康被害者の救済は打ち切られました。しかし、前述のように東京都民だけは裁判の勝利和解により、2008年から健康被害が救済されるようになり、現在7万人を超えるまでになりました。しかしこの救済制度は5年間で見直すことになっており、今年度末で打ち切られる危機に立っています。西村さんらは、健康被害者と共に、その存続を国や車メーカー等に働き続けています。喘息はある日突然発病することがあり、他人事ではありません。大気汚染健康被害の救済制度は東京だけでなく、全国に広げる必要があります。（以上）